

自然休養林情報

白谷雲水峡は利用できます

9月中旬の台風19号により県道白谷雲水峡宮之浦線は道路決壊のため通行止めになっていましたが、12月11日から条件付き（夜間と雨天時は通行止め）ながら通行可能となりました。

これに合わせて保全センターでは、白谷雲水峡の遊歩道等の施設点検や落葉・落枝の整理を行いました。

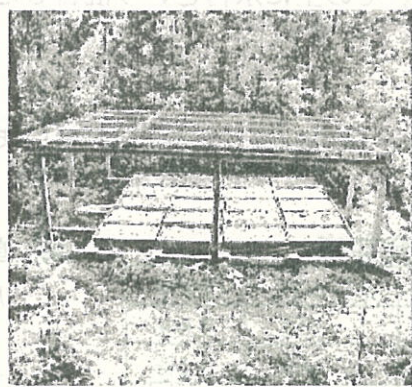
なお、白谷広場・管理棟での業務は行っておりませんが、森林環境整備推進協力金については「協力金箱」を管理棟の前に備え付けてありますので、ご協力をお願いいたします。これから歩道沿いにはオオゴカヨウオウレンやオサマイナモリの白い可憐な花が期待できます。



この事業は、保全センターと屋久島環境文化財団が共同事業として実施しているものです。

発芽本数調査を行った結果平成七年度に播種したものが約八、〇〇〇本、平成九年度播種したものが約一四、〇〇〇本の稚苗を数えました。

平成九年度に播種したものは、播種床ごとの種子数を決めていましたので発芽率を出してみると、播種床の種類別発芽率では水苔が一番良く七八%、また、種子の採取箇所別発芽率では翁岳の麓で採



取した種子が一番良好でした。

詳しい調査結果と事業の概要は裏面に掲載しています。これから、ポットへの植え替え等を行い、平成十一年度

ヤクシマシヤクナゲの保護増殖事業順調に進行中

平成七年度から実施しているヤクシマシヤクナゲの保護増殖事業は順調に進行しており今回発芽本数の調査を行ったので、その結果をお知らせします。

までの五カ年計画で一、〇〇〇株以上の育苗を行い、盗掘箇所等への植栽を予定しています。

宮之浦岳登山道 植生回復工実施

登山者の増加に伴う登山道の荒廃による周辺植生の被害を防止するため、淀川登山口から約一、〇〇〇mの区間で植生回復工を今月から実施する予定です。

今回の事業は、試験的な要素も含んでおり、樹木の根の露出・土壌の流亡箇所等の荒廃状況に応じた木製階段の設置や、雨水の排水処理としての水切り、腐植する土のう袋を使用した土壌回復等の工法を採用しました。

完成後もモニターを行い、屋久島の登山道周辺の植生回復に役立てていく予定です。

ウイルソン株周辺 天然コスギの調査に協力

「保全センターの永久プロットとして調査を継続」

屋久島自然館では、館のりニューアル等の資料とするため、ウイルソン株周辺のスギ林の調査を十二月上旬に九州大学吉田茂二郎先生の指導で実施されました。

保全センターでは、ウイルソン株周辺が、五年計画で進

屋久島の植物



果実
 リュウキュウリミノキ (あかね科)

タシロリミノキとも言い屋久島を分布の北限とする常緑低木。尾之間歩道の蛇之口滝周辺で多く見られ、十一月まで白い花を咲かせ、球形で瑠璃色の実を多数枝元から枝先へと順に結実させる。

同じ仲間のリミノキは花の時期（五、六月）や夏に結実することから区別できる。

縄文杉・大株歩道沿いのヤクスギを樹勢診断

十二月月上旬、世界遺産保全緊急対策事業で、縄文杉と大株歩道沿いのヤクスギ等の樹勢診断を、樹木医の先生方にしていただきました。

調査には、国立公園屋久島管理官事務所の佐山管理官にも同行いただき、縄文杉では、主に周辺の植生回復のための土壌診断と植生調査を、大株歩道沿いでは、登山者の通行により根が露出している

これらの調査と分析結果は「ヤクスギ樹勢回復に関する調査報告書」としてまとめられ、来年度以降の樹勢回復事業等の基礎資料として活用していきます。

自然休養林でアンケート

平成四年度から重点的に行ってきた歩道の整備や橋の架け替えなど自然休養林の施設整備がほぼ完了しようとしています。

お知らせ

そこで、休養林の管理や運営を今後どのように進めるかの検討資料とするため今月中にヤクスギランドで入林者の皆さんにアンケートをお願いすることにしました。ご協力をお願いします。

ヤクシマシャクナゲの保護増殖事業

目的

ヤクシマシャクナゲは、ツツジ科の屋久島固有変種であり、屋久島の森林植生の指標植物であるとともに森林観賞における目玉となっています。一方で、その観賞植物としての価値から盗掘が絶えず、相当数が被害にあっている現状であり、これからも被害の拡大するおそれがあります。

これに対処するために、屋久島国有林において保護増殖事業を実施し盗掘箇所等への植栽を行うことによって、森林生態系の修復を図ることを目的に、平成7年度から屋久島森林環境保全センターとアムウェイネーチャーセンターの助成を受けた屋久島環境文化財団が共同でこの事業を実施しています。

事業の概要

種子は、平成7年10月に花之江河、黒味岳、投石岳及び翁岳周辺の歩道沿いで採取し、播種はヤクシマシャクナゲの天然分布域である標高1300m付近を選定し、平成7年11月に1回目、平成8年3月に2回目、平成9年4月に3回目を行いました。

播種の方法については、育苗箱に水苔、鹿沼土、砂を使った播種床を作り、種子を播いて水苔で覆う方法で実施しました。

平成9年度播種分については鹿沼土の上に砂、その上に水苔という混合したものを追加し、育苗箱を覆うように新たに屋根を作成し、雨による流亡等の防止対策をとりました。

発芽本数調査結果

本数調査は平成9年11月19日に実施し、発芽初期から相当経過していますが、播種粒数に対する生存本数を発芽率として算出しました。今回は平成9年度播種分についての調査結果を掲載します。

表-1 平成9年度播種の発芽本数及び発芽率

番号	播種床種類	種子採取箇所	播種量(粒)	発芽本数	発芽率
1	鹿沼土	黒味岳	19600	512	2.6%
2	鹿沼土	花之江河	11200	688	6.1%
3	鹿沼土	オキナ648	8400	288	3.4%
4	鹿沼土	ナゲシ639	14000	2008	14.3%
5	鹿沼土	オキナ650	7000	792	11.3%
6	山砂	黒味岳	19600	192	1.0%
7	山砂	花之江河	11200	168	1.5%
8	山砂	オキナ648	8400	1376	16.4%
9	山砂	ナゲシ640	14000	600	4.3%
10	山砂	ナゲシ	7000	568	8.1%
11	水苔	黒味岳	19600	2008	10.2%
12	水苔	花之江河	11200	1056	9.4%
13	水苔	オキナ649	8400	720	8.6%
14	水苔	ナゲシ640	14000	544	3.9%
15	水苔	黒味岳(赤)	7000	360	5.1%
16	混合	黒味岳	19600	1224	6.2%
17	混合	花之江河	11200	48	0.4%
18	混合	オキナ649	8400	280	3.3%
19	混合	ナゲシ640	14000	96	0.7%
20	混合	オキナ647	7000	384	5.5%
計			240800	13912	5.8%

調査結果

平成9年度播種分については、それまでの方法と違い播種床の上に屋根をつけて雨水等による被害を軽減したため、発芽したものが流亡せずに残っていました。平成7年度に播種したものは育苗箱50個で約8,000本の発芽でしたが、平成9年度分は左の表のように20個で約14,000本の発芽があり、屋久島での雨滴による被害の大きさをうかがわせます。

種子の播種量については、表-1で解るように量が多いものが必ずしも沢山発芽している訳ではなく、No.9の8400粒のものが16.4%で最も発芽率が良く、次いでNo.4の14000粒の14.3%となっています。ちなみに播種量別の発芽率では1位が8400粒の7.9%で2番目が7000粒の7.5%となっています。

播種床別の発芽率(表-2)では水苔が1番よく、これは7年度実行したのも同じような結果を出しています。シャクナゲは乾燥に弱く水苔の保水力の影響が大きいといえるようです。

種子の採取箇所別(表-3)では翁岳周辺で採取したものが発芽率が良く花之江河の種子の倍近くの発芽率を示しています。

この結果をふまえて、今後温度や湿度等も考慮したデータの蓄積を行い最良の結果を出せるように事業を進めていくことにしています。

表-2 播種床別発芽率一覧表

播種床種類	播種量(粒)	発芽本数	発芽率
鹿沼土	60200	4288	7.1%
山砂	60200	2904	4.8%
水苔	60200	4688	7.8%
混合	60200	2032	3.4%

表-3 種子採取箇所別発芽率一覧表

採取箇所	播種量(粒)	発芽本数	発芽率
黒味岳	85400	4296	5.0%
花之江河	44800	1960	4.4%
翁岳	47600	3840	8.1%
投石岳	63000	3816	6.1%